

# 第1部 序論



## 第2次総合計画の枠組み

### 1. 計画策定の趣旨

本町では、平成 18（2006）年の合併以降、「新町建設計画※」の趣旨を踏まえた「第 1 次和気町総合振興計画」（計画期間：平成 23（2011）年度～令和 2（2020）年度）を策定し、「人かがやき 共に支え合う 快適で 健やかなまち」という将来像の実現に向けて、町民とともに、様々な取組を推進し、本町の発展と町の一体感の醸成に向けて、町民生活のあらゆる分野にわたる多くの施策を進めてきました。

しかし、この間、地球規模で頻発する大規模な自然災害や新型コロナウイルス感染症※の流行等、安全・安心に対する不安意識の高まり、国際情勢の不安定化、さらには急速に進行する人口減少と少子超高齢社会への対応など、我が国を取り巻く社会環境はこれまで経験したことのない試練の時を迎えているといえます。

また、本町においては、全国的な傾向と同様に、人口減少、少子化が進行しており、人口構成バランスのとれた「持続可能な地域社会の構築」や、超高齢社会の到来に伴う健康寿命※の延伸などが大きな課題となっており、町民の意識は、“命と暮らしを守る安全・安心への希求”、“子育て・保育・教育の充実”、“保健、医療、福祉の充実”を重視する傾向がとりわけ強くなっています。

こうした町民の思いに的確に対応するとともに、将来にわたってすべての町民が安全・安心でいつまでも尊厳を持って住み続けられるまちを築いていくための指針として、第 2 次和気町総合計画を策定します。

### 2. 計画の位置づけ

#### （1）和気町の最上位計画

総合計画は、時代の潮流や本町を取り巻く環境の変化や、町民の声などを反映し、基本的な理念や町の将来像など、本町が目指すべきまちづくりの方向性を示すとともに、実現に向けた基本目標や具体的な施策をとりまとめたものであり、本町の行財政運営を総合的かつ計画的に推進していくための最上位の計画です。

なお、「和気町議会の議決すべき事件を定める条例」において、町における総合かつ計画的な行政の運営を図るための総合振興計画基本構想の策定は、議会の議決すべき事件として定められています。

#### （2）「第 2 期和気町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含した計画

本町では、町の現状や国の動向等を踏まえ、現行の「第 1 期和気町まち・ひと・しごと創生総合戦略」※の計画期間を 1 年間延長し、令和 2（2020）年度末までの 6 年間としています。

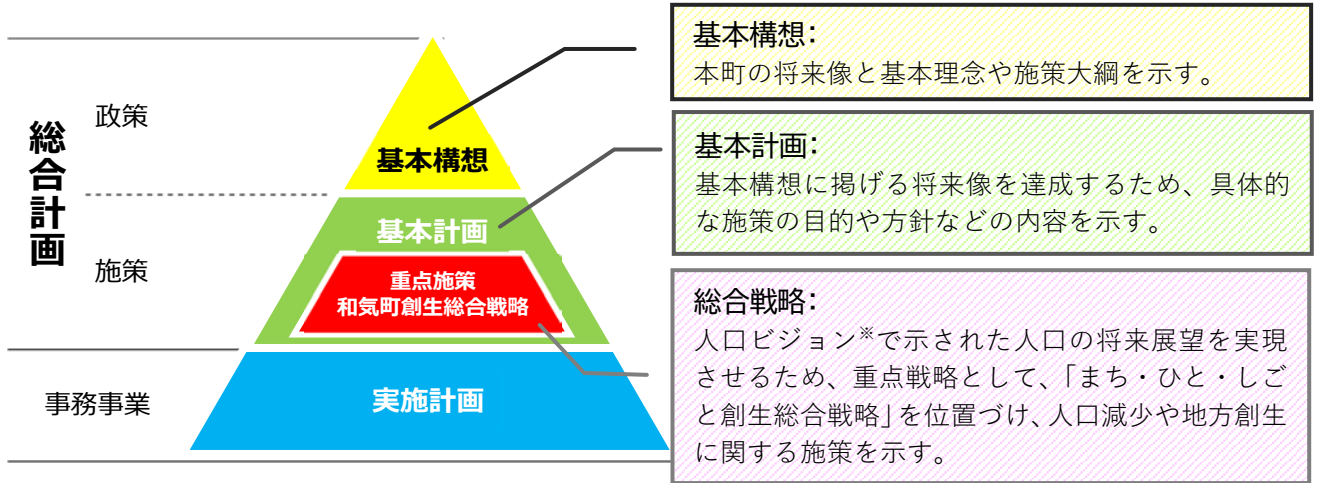
また、総合戦略は、町の最上位計画である総合計画の理念や施策と一致するものであることから、「第 2 期和気町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「第 2 次和気町総合計画」に統合し、前期基本計画のリーディングプロジェクト※として位置づけ、一体的に推進していくものとします。



### 3. 計画の構成と期間

#### (1) 構成

この総合計画は、基本構想と基本計画の2階層で構成します。



#### (2) 期間

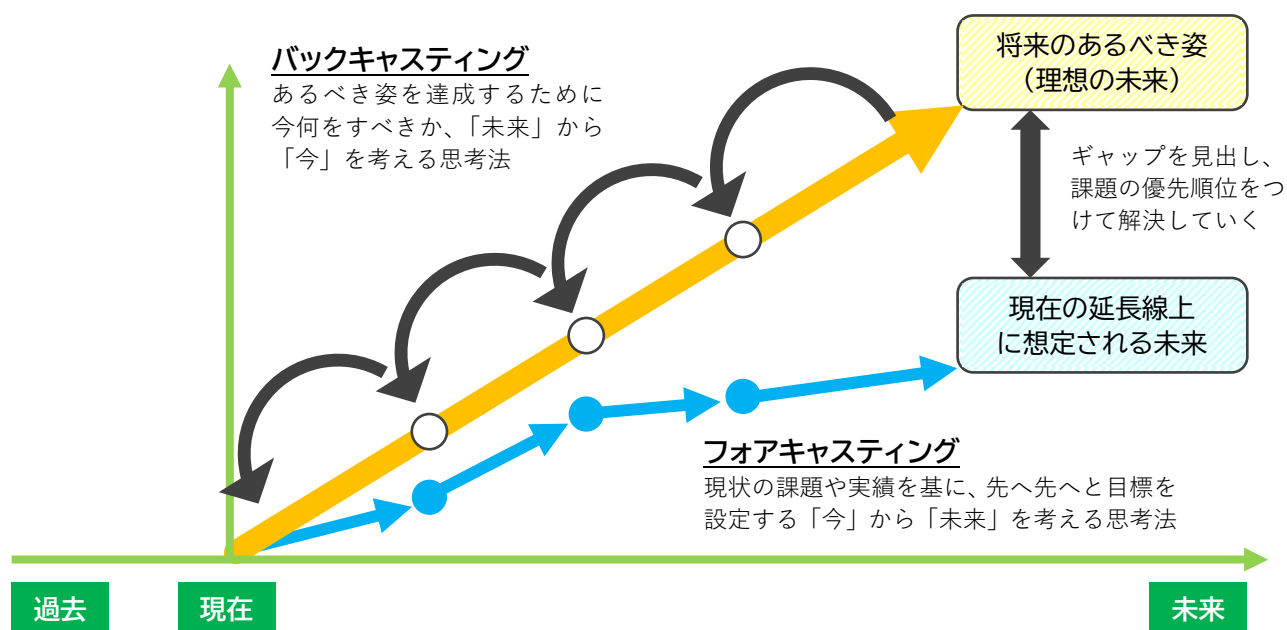
計画期間について、基本構想は令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間、基本計画は、前期計画が令和3（2021）年度から令和7（2025）年度の5年間、後期計画は令和7（2025）年度に前期計画を見直し、後期計画を策定します。また、前期基本計画においてリーディングプロジェクトとして位置づける「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」も5年間を計画期間とします。なお、実施計画は、3カ年計画としますが、毎年見直しを行うローリング方式とします。

| R3<br>(2021)    | R4<br>(2022) | R5<br>(2023) | R6<br>(2024) | R7<br>(2025) | R8<br>(2026)   | R9<br>(2027) | R10<br>(2028) | R11<br>(2029) | R12<br>(2030) |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| 基本構想（期間：10年間）   |              |              |              |              |                |              |               |               |               |
| 前期基本計画（期間：5年間）  |              |              |              |              | 後期基本計画（期間：5年間） |              |               |               |               |
| 第2期総合戦略（期間：5年間） |              |              |              |              |                |              |               |               |               |
| 実施計画            |              |              |              |              |                |              |               |               |               |
| 見直し             | 見直し          |              |              |              |                |              |               |               |               |

## 4. 計画の特徴

人口急減、少子超高齢社会の到来をはじめ、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う、新しい生活様式への転換や大規模な自然災害の頻発、持続可能な開発目標（SDGs※）への対応など社会潮流が本町にもたらす影響の把握に努め、これらに対応した計画とします。

また、本町の将来を展望して「理想の未来」を描き、その時点から計画期間を振り返って、実施すべきことを整理する「バックカスティング思考法」による計画づくりを行います。



### 「スポーツの町 和気」 こども絵画コンクール 町長賞(小学生・低学年の部)



和気小学校2年 小山 栞奈 さん

## 計画策定の背景

## 1. 和気町の概況（位置、地勢、特徴、周辺との関係性）

## （1）位置・地勢

本町は、岡山県の東南部に位置し、県庁所在地の岡山市から北東 32 km に位置しています。町の東部は兵庫県と接する備前市、北部は美作市、西部は赤磐市と接しています。

交通は、J R 山陽本線及び山陽自動車道が町南部を東西に通り、町の西部を美作岡山道路が、また町の中心部を国道 374 号がそれぞれ南北に通る交通の利便性に恵まれた地域となっています。

本町の総面積は、144.21 km<sup>2</sup> で、町のほぼ中心部を岡山三大河川の 1 つである一級河川吉井川が貫流し、金剛川、初瀬川、王子川など吉井川支流沿いに市街地が形成されているとともに、林野面積が総面積の約 75% を占めるなど、豊かな水と緑に彩られています。

気象は、瀬戸内式気候※に属し、年間平均気温は 14～15℃、年間降雨量は 1,200～1,300mm 程度で、全国的にみても降雨量が少なく、生活しやすい気候に恵まれています。



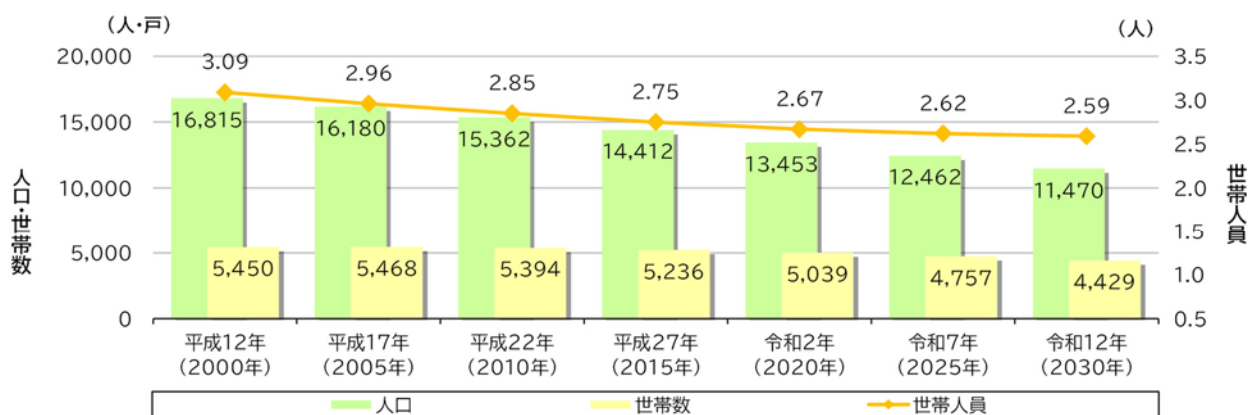
## （2）沿革

和気町は、平成 18（2006）年 3 月に旧佐伯町、旧和気町の 2 町が合併して誕生しました。

この地域は、古代から備前の国和気郡に属しており、吉備文化圏※の東部に位置する交通の要衝で、奈良時代末期に平安遷都に尽力した和気清麻呂※公を輩出しました。近世では、池田家※の岡山藩に属し、吉井川を航行する高瀬舟が寄港する商業地として栄えてきました。その後、時代の流れとともに、交通機関も舟運から陸路へと変わり、県北部から備前市間を運行する旧片上鉄道※や山陽鉄道※の開通などにより、沿線を中心に市街化が進み、現在では、町南部を東西に貫通する山陽自動車道や、町の南北を貫通する国道 374 号を中心に広域交通の要衝として発展してきました。

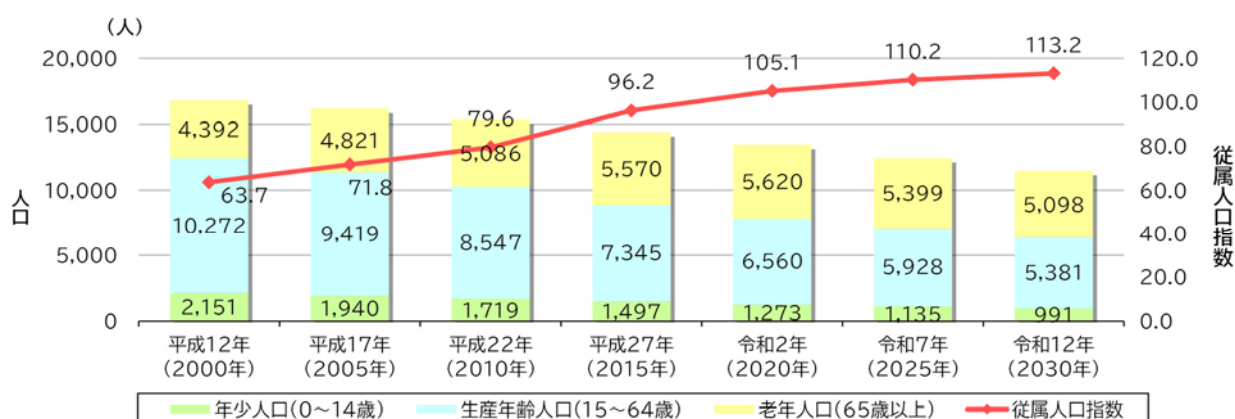
### (3) 人口の推移

本町の人口は昭和 55（1980）年前後をピークに減少に転じ、今後も減少基調で推移していくことが予測されています。



（資料）総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

少子高齢化が進み、平成 27（2015）年の年少人口率は 10.4％、老年人口率（高齢化率）は 38.6％となっています。また、従属人口指数（働き手である生産年齢人口 100 人が年少人口及び老年人口を何人支えているかを示す比率）はこの 10 年間で急激に上昇し、今後もますます高くなることが予測されています。



（資料）総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

#### 「川のきれいな和気町」 こども絵画コンクール 議長賞（小学生・低学年の部）



本荘小学校2年 山口 絢加 さん



## 2. 社会の潮流

### (1) 安全・安心な社会の希求

近年、大規模化する風水害や地震などの自然災害が地球規模で多発しており、我が国においても、毎年各地で大きな被害が出ています。災害への不安感が高まる一方、災害を我が事として捉え、「自助」、「共助」の意識をこれまで以上に高めていくことが必要です。

国が平成 31 (2019) 年に公表した南海トラフ地震※をはじめとするマグニチュード 8 から 9 クラスの大規模地震や首都直下地震等も、今後 30 年以内に 70～80%の確率で発生することが予測されており、有事に備えた更なる防災体制の強化充実など、しなやかで持続可能なまちづくりが急務となっています。

また、交通事故や特殊詐欺※等、子どもや高齢者が巻き込まれる犯罪の多発、新型コロナウイルス感染症の世界的流行など、人々の暮らしや健康を脅かす事案が多く発生しており、安全で安心な暮らしを希求する気運が以前にも増して高まっています。

### (2) 人口急減・超高齢社会への対応

国立社会保障・人口問題研究所※が平成 30 (2018) 年に公表した将来推計人口によれば、日本の将来人口は、平成 27 (2015) 年の 1 億 2,709 万人から令和 47 (2065) 年には、8,808 万人と、今後 50 年間でおよそ 3 割減少するものと推計されています。また、年齢 3 区分別人口の割合は、年少人口、生産年齢人口が減少する一方、老年人口が令和 32 (2050) 年ごろまで急速に増加すると推計されています。老年人口の増加について、日本は、昭和 45 (1970) 年に「高齢化社会※」に突入し、その後も高齢化率は急激に上昇、平成 6 (1994) 年に「高齢社会※」、平成 19 (2007) 年に「超高齢社会※」へ突入しました。高齢化率は今後も高くなると予測されており、令和 7 (2025) 年には約 30%、令和 42 (2060) 年には約 40%に達すると見込まれています。

このような人口急減・超高齢社会の到来は、支え手である生産年齢人口※の減少とそれに伴う経済規模の縮小、社会保障制度と財政の持続可能性のリスクの高まり、社会の活力の低下をもたらすなど、「2025 年問題」※として広く認識されています。

人口減少・少子高齢化の進行が避けられない状況を危機感として捉えた行政運営の変革が求められています。

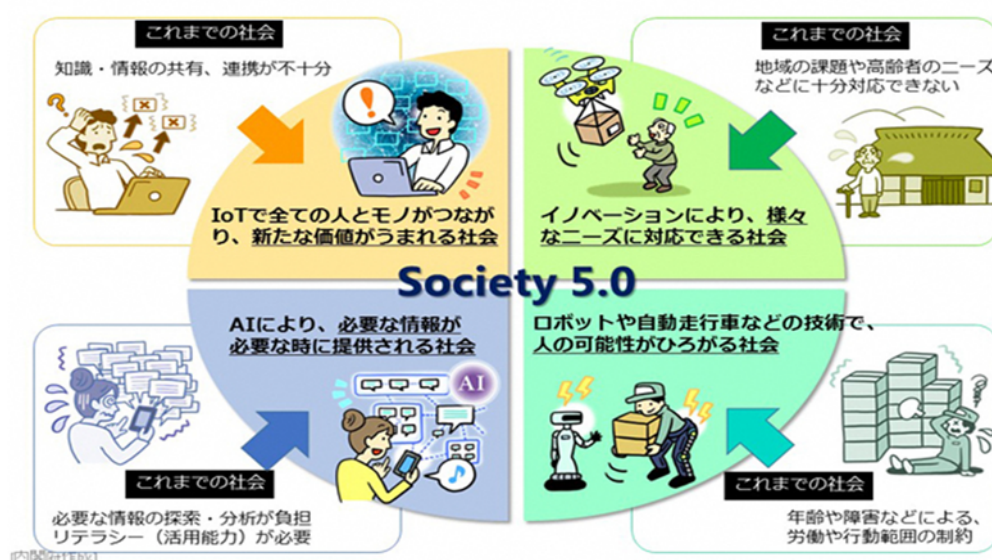
### (3) 経済財政状況の変化

長く低迷していた日本経済は、国の経済政策等により、近年は緩やかな回復基調となっていました。令和 2 (2020) 年の新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、全世界的に経済がマイナス成長に陥ると見込まれており、経済協力開発機構 (OECD) ※によると令和 2 (2020) 年の日本の実質 GDP 成長率※は、感染が再拡大した場合、マイナス 7.3%まで落ち込むという見通しが示されています。また、平成 20 (2008) 年のリーマンショック※時において、我が国の地方税収の落ち込みは回復に 10 年近くを要しましたが、この度の感染症の影響は当時を上回る可能性も指摘されており、これによって、今後の地方税収の落ち込みもより大きく長期化することが懸念されています。

## (4) Society5.0※（超スマート社会※）で実現する社会

Society5.0 とは、狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すもので、内閣府の「第5期科学技術基本計画」（平成28（2016）年1月22日閣議決定）において、我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

Society5.0 で実現する社会は、IoT※（Internet of Things）ですべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これからの課題や困難を克服します。また、人工知能（AI※）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットやドローン、自動走行車などの技術により、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題克服が期待されています。これらの社会変革を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人ひとりが快適かつ活躍できる社会になることが期待されています。



## (5) インフラ・公共施設の老朽化

我が国では、高度経済成長期に道路、橋梁、上下水道、公共施設等が集中的に整備されたため、建設後50年以上経過した施設の割合が高くなり、補修修繕、維持管理の費用が急速に増大することが見込まれています。このため、インフラ※、公共施設管理の効率的なシステム、手法の導入、インフラ施設、公共施設の長寿命化、公共施設の統廃合・複合化など戦略的かつ効率的に維持・更新することが求められています。



## (6) 世界共通の目標SDGsの推進

貧困、紛争、テロ、気候変動、資源の枯渇など、人類はこれまでになかったような数多くの課題に直面しています。このままでは、人類は安定してこの世界で暮らし続けることができなくなるといわれており、これらの課題を解決するために、平成 27 (2015) 年に令和 12 (2030) 年までに達成を目指す 17 項目に及ぶ「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」が国連で採択され、国際社会全体がそれぞれの責任と役割において、行動していくことが求められています。

日本においても、力強い担い手として、SDGsを推進していくにあたり、「持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針が策定され、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」というビジョンのもと、国家戦略として取組が進められています。このことから、行政、事業者、住民などすべての関係者がそれぞれの役割を担うことが求められており、国内でも持続可能な社会の実現のため、積極的にSDGsの達成に向けた取組を行う民間事業者が増えています。

「SDGs」が掲げるゴールは、本町が第2次総合計画において目指す理想の未来と合致するものであり、地球市民としての役割を果たすため、総合計画の基本計画の各分野施策とSDGsの17の目標との関連性を示し、各施策を推進することにより、SDGsの目標達成につなげていくものとします。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



#### SDGsが掲げる 17 のゴール

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1 貧困をなくそう            | 10 人や国の不平等をなくそう       |
| 2 飢餓をゼロに             | 11 住み続けられるまちづくりを      |
| 3 すべての人に健康と福祉を       | 12 つくる責任つかう責任         |
| 4 質の高い教育をみんなに        | 13 気候変動に具体的な対策を       |
| 5 ジェンダー※平等を実現しよう     | 14 海の豊かさを守ろう          |
| 6 安全な水とトイレを世界中に      | 15 陸の豊かさを守ろう          |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に       |
| 8 働きがいも経済成長も         | 17 パートナースhipで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう    |                       |

### 3. 町民の意識からみえる課題の整理

#### (1) 施策別の重要度と満足度（地方創生に関するアンケートから）

- ・調査対象：18歳以上の町民 2,000 人（回答数は 700 人）
- ・実施期間：平成 29（2017）年 10 月

本町の“地方創生※に関するアンケート”において、「和気町が住みやすいと感じる点」を“満足度”とし、「より多くの人々が和気町に住み続けるための取組として必要な取組」を“重要度”として、施策分野のCS分析※を行いました。

【問 10 満足度】

| 設問選択肢                        | 施策分野     |
|------------------------------|----------|
| 1 自然環境が良い                    | 自然環境     |
| 2 JR 和気駅がある                  | 交通       |
| 3 高速道路のインターチェンジがある           | 交通       |
| 4 生活インフラ(上下水道・光回線など)が整備されている | 生活環境     |
| 5 職場に近い、仕事が多い                | 仕事       |
| 6 治安が良い                      | 安全・安心    |
| 7 医療・福祉サービスが充実している           | 医療・福祉    |
| 8 子育て環境が充実している               | 子育て      |
| 9 買物が便利である                   | 生活環境     |
| 10 近所の付き合い、地域活動が活発である        | 地域コミュニティ |
| 11 その他                       | —        |
| 12 わからない                     | —        |

【問 22 重要度】

| 設問選択肢             | 施策分野     |
|-------------------|----------|
| 1 賃貸住宅や分譲地などの住居確保 | 住宅環境     |
| 2 交通の便の充実         | 交通       |
| 3 子育て環境の充実        | 子育て      |
| 4 教育環境の充実         | 教育       |
| 5 働く場所の確保         | 仕事       |
| 6 買物環境の充実         | 生活環境     |
| 7 医療・福祉の充実        | 医療・福祉    |
| 8 治安対策の充実         | 安全・安心    |
| 9 災害に強いまちづくり      | 安全・安心    |
| 10 観光資源を活かしたまちづくり | 観光       |
| 11 町の活性化、にぎわい創出   | 地域コミュニティ |
| 12 地域コミュニティの充実    | 地域コミュニティ |
| 13 自然環境の保全        | 自然環境     |
| 14 その他            | —        |
| 15 特にない           | —        |

#### 「あおのまち」 こども絵画コンクール 教育長賞(小学生・低学年の部)



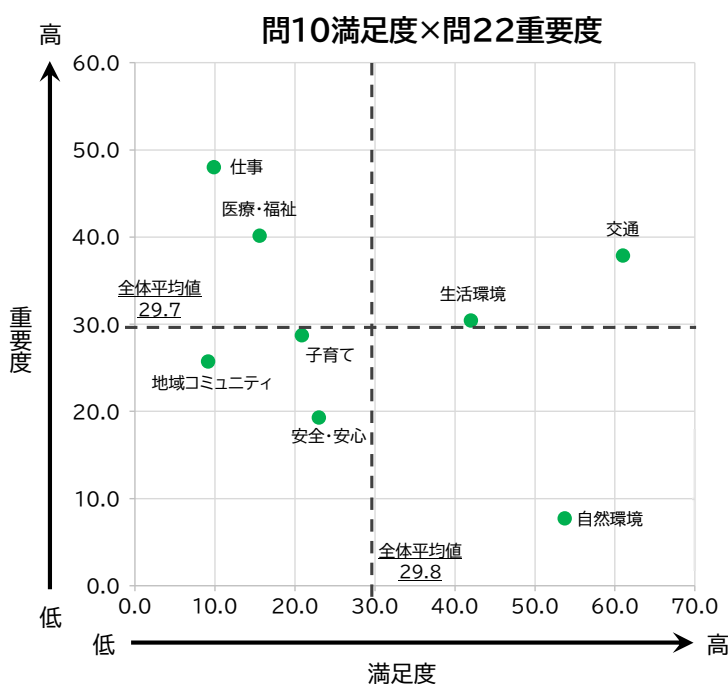
佐伯小学校2年 時本 智史 さん

満足度と重要度に位置づけて比較した結果、下のグラフの左上、2群にあたる、「重要度が高いにも関わらず満足度が低い」施策は“仕事”と“医療・福祉”という結果になりました。

特に、“仕事”に関しては重要度が最も高いにも関わらず、満足度が最低ランクとなっており、より多くの方が和気町に住み続けるために、最優先で取り組んでいかなければならない施策といえます。

医療・福祉に関しては、町内医療機関として、小児科・産婦人科・皮膚科がないことに起因していることが考えられます。

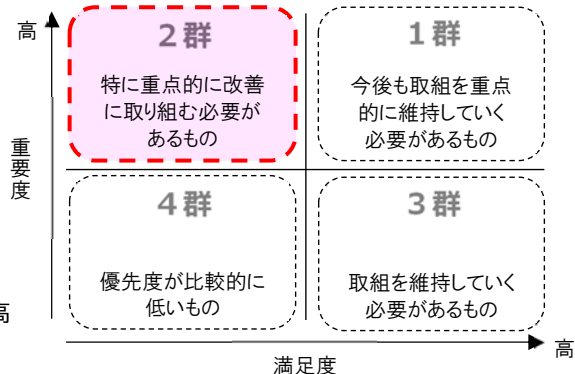
その他、満足度が低かったものは“地域コミュニティ”となっています。これは人口の減少を背景とする少子高齢化、高齢者世帯の増加や世帯の小規模化などの要因から、地域におけるコミュニティ意識の希薄化などが要因となっていると思われます。また、4群に属している施策であっても、“子育て”や“地域コミュニティ”のように重要度については平均値に近い施策もあり、満足度を高めていくための施策を充実する必要があります。



#### 【満足度と重要度の相関図について】

相関グラフは、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、各取組の加重平均値によって、4つの性格を持つ領域に整理区分したもの。

#### 【相関図の見方】



※問22における“住宅環境”“教育”“観光”については、満足度で比較する項目がなかったため考慮していません。

### 「どうぶつとくらせる町」 こども絵画コンクール 町振興計画審議会会長賞(小学生・低学年の部)



佐伯小学校 2年 片山 紗希 さん



## (2) 移住者による和気町の評価（移住者アンケートから）

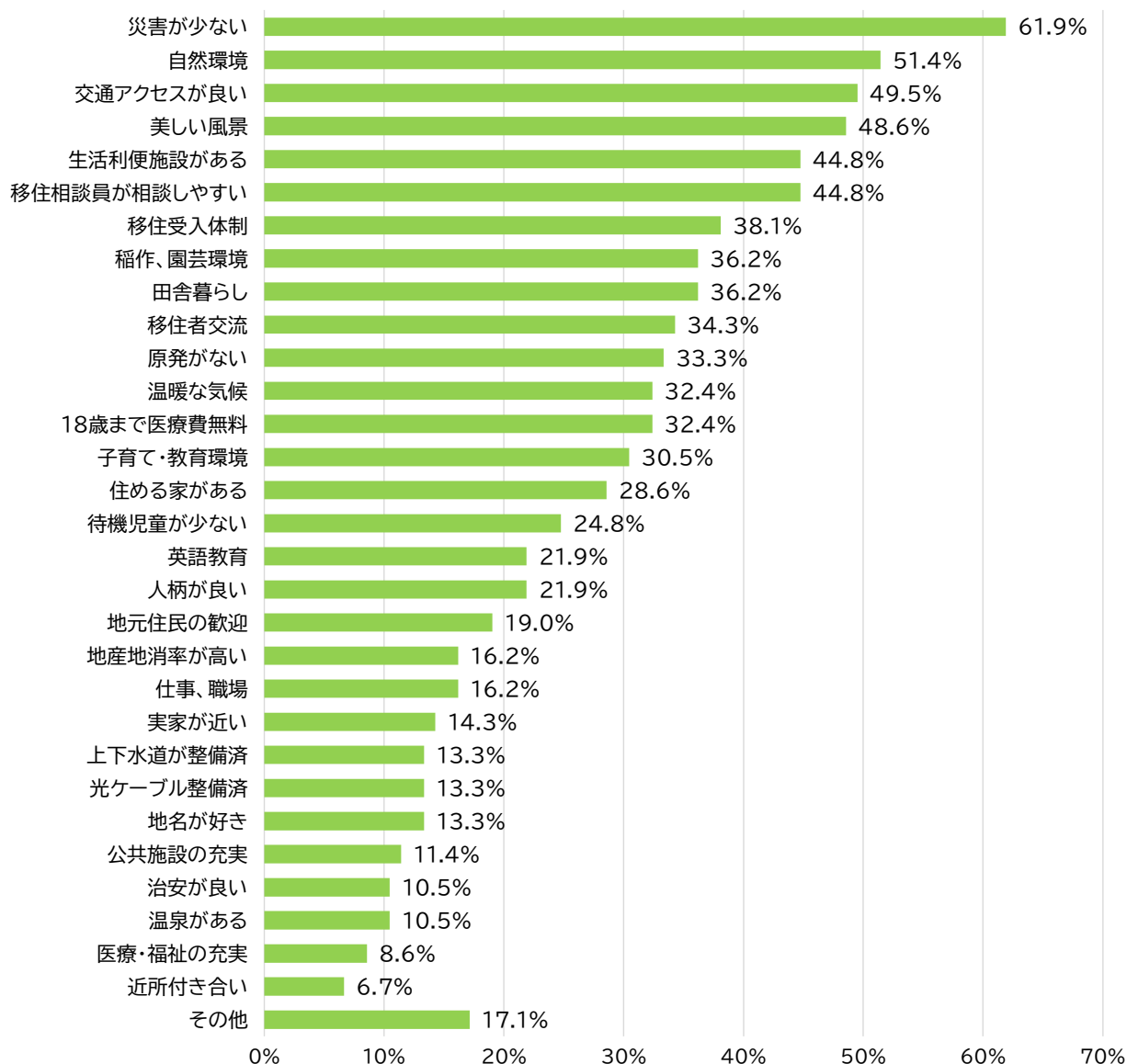
- ・調査対象：本町への移住者（20～50 歳代）
- ・実施期間：令和 2（2020）年 7 月

“子育て世代の移住者意識調査”（回答数は 105 人）において、「和気町を移住先にした理由、判断材料になった事項」をみると、「災害が少ない」との回答が最も多くなっています。安全・安心な生活を求める移住者が多いだけでなく、本町の地理的特性による自然災害のリスクの少なさが移住者にとって大きな魅力となっていることが分かります。

また、「交通アクセスが良い」との回答も多くなっています。このことは“地方創生に関するアンケート”で「仕事」に関して重要度が高くなっていましたが、町内に魅力的な仕事が見つからない場合でも J R 等を利用して近隣自治体へ通勤が可能な地域であるといえます。これらの優位性は、他の自治体と差別化できる本町の強みとされますので、移住定住促進や企業誘致等の施策に積極的に活かしていくことが必要であると考えられます。

（複数回答、サンプル数：105）

### 和気町を選んだ理由、判断材料



### (3) ワークショップ意見

若い年代を中心にワークショップを実施し、和気町の10年後、20年後のあるべき姿をイメージしたバックキャスティングにより、現状の和気町に必要な取組を検討しました。

#### <実施概要>

| 対象                 | 開催日      |
|--------------------|----------|
| 和気中学校、佐伯中学校 1～3年生  | 8月26日(水) |
| 岡山県立和気閑谷高等学校 1～3年生 | 8月4日(火)  |
| 町内出身大学生            | 8月9日(日)  |
| 町在住社会人女性           | 8月9日(日)  |

#### <ワークショップで出た主なキーワード>

|                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>&lt;中学生&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買い物のお店、飲食店が充実してほしい</li> <li>・ 交通利便性を高くしたい</li> <li>・ まちの美しさ、景観</li> <li>・ 自然が豊か</li> </ul>                  | <b>&lt;高校生&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お店、商業施設がない・少ない</li> <li>・ 自然(緑)が豊か</li> <li>・ 人や地域の関わりが良い(良くなってほしい)</li> <li>・ 医療費無料、医療の充実</li> </ul> |
| <b>&lt;大学生&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Uターン、Iターン※、戻ってきたくなるまち</li> <li>・ ICT※、IoT系の発達</li> <li>・ 公営塾など、教育の充実</li> <li>・ 若者でにぎわい、高齢者もいきいき</li> </ul> | <b>&lt;社会人&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが多い、高齢者が元気</li> <li>・ 英語教育が充実</li> <li>・ やりたいことが実現できる</li> <li>・ ヒト・モノ・コトの町内での循環</li> </ul>        |

#### 「自ぜんがいっぱいの和気町」 こども絵画コンクール 町長賞(小学生・中学年の部)



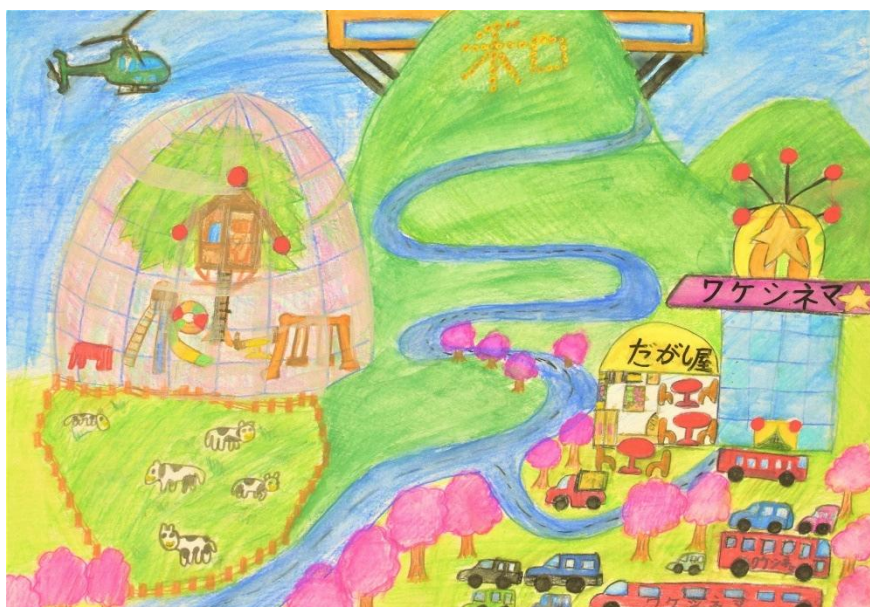
佐伯小学校3年 浦上 遥貴 さん

ワークショップで出た意見と、統計データや社会情勢、施策推進における見解等を踏まえ、和気町の状況を、強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の4つのカテゴリに整理しました。

# <和気町の状況>

| ◎ ワークショップ意見等からみえる強み                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ◎ ワークショップ意見等からみえる弱み                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 移住者が増えてきている</li> <li>○ 豊かな自然環境や景観が良い</li> <li>○ 自然災害が少ない</li> <li>○ 高速道路ICやJRなど交通の便が良い</li> <li>○ 英語教育に力を入れており、学習面が魅力</li> <li>○ 子育て支援策が充実している</li> <li>○ 医療体制や医療費支援が充実している</li> <li>○ 高齢者が元気</li> <li>○ 人が優しく、住民同士の関係が良い</li> <li>○ 住民の地元愛が強い</li> <li>○ 移住者を受け入れられるオープンな環境</li> <li>○ 光ファイバー普及率 100%</li> <li>○ ドローン事業を活用した認知度向上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>× 児童・生徒数の更なる減少</li> <li>× 高齢者世帯(ひとり暮らし)の増加</li> <li>× 農業後継者の著しい減少</li> <li>× 森林の荒廃</li> <li>× 耕作放棄地の増加</li> <li>× バスが少ないなど、車がないと交通が不便</li> <li>× 道が狭く、防犯灯が少ない地域がある</li> <li>× インフラの老朽化</li> <li>× 子育てへの経済的負担や不安感</li> <li>× 地域のつながりの希薄化</li> <li>× 若い世代が活躍できる仕事がない</li> <li>× 商店数等、地域格差が大きい</li> </ul> |
| ◎ 基礎的状況把握からみえる機会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | ◎ 基礎的状況把握からみえる脅威                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 安全安心な居住地への関心の高まりと多彩な移住希望者の増加</li> <li>☆ 就農希望者の増加</li> <li>☆ 都市と地方との交流の進展</li> <li>☆ インターネット、ICT、AI 環境等 Society5.0 の進展</li> <li>☆ 幅広い世代での健康意識の高まり</li> <li>☆ 団塊世代等の退職に伴う余暇時間と多様な活動意欲の増加</li> <li>☆ 自然や地域資源を活用した観光ニーズの高まり</li> <li>☆ 食へのこだわりや安全意識の向上</li> </ul>                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>△ 人口減少社会、少子高齢化の進行</li> <li>△ 核家族化の増加</li> <li>△ 自然災害の発生(大規模震災など)</li> <li>△ 地球温暖化による異常気象や大規模な自然災害</li> <li>△ 地域間競争の激化</li> <li>△ 鉄道を中心とした公共交通の縮減</li> <li>△ 社会保障制度のひっ迫</li> <li>△ SNS※等による新たな差別やいじめ問題の顕著化</li> <li>△ 雇用条件等による人材流出等、労働力の減少</li> <li>△ 県立高校の規模縮小と存廃の懸念</li> </ul>                        |

## 「ぼくの住みたい10年後の和気町」 こども絵画コンクール 議長賞(小学生・中学年の部)



本荘小学校4年 池田 壮佑 さん



このSWOT分析※の内容から、それぞれの状況を掛け合わせ、次のような和気町の今後のまちづくりにおける主要課題が浮かび上がってきました。

|                  | 強み=Strengths                             | 弱み=Weaknesses                              |
|------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 機会=Opportunities | <b>【積極的攻勢】</b><br>強みを武器にして<br>機会を最大限に生かす | <b>【弱点強化】</b><br>弱みによって機会を<br>失わないように対策を打つ |
| 脅威=Threats       | <b>【差別化戦略】</b><br>強みを生かして<br>脅威に対抗する     | <b>【問題回避】</b><br>弱みと脅威が重なる<br>最悪の事態を回避する   |

### 【積極的攻勢】

- 自然環境を活かした地域の新たな魅力の創出
- 若者向け住宅供給、子育て世代の移住対策
- 和気に住んで町外で働く(岡山市通勤等)人への支援
- 元気な高齢者の活躍する場の充実
- IT等新技術と連携した健康づくりの推進
- 林野適正保全のための林業の成長産業化
- 新旧住民の交流活性化事業
- リモートワーク※、テレワーク※等、新しい働き方の推進

### 【弱点強化】

- 有機農法等による耕作放棄地解消対策
- フレイル※予防対策による健康寿命※の延伸
- リモートワークの増加と自然環境を活かした移住者誘致
- 山林、耕地等、里地里山※の保全対策
- 地域住民も関わる教育活動の推進(コミュニティ・スクール)
- 移動に係る公共交通の利便性の向上
- 体験型農園※の整備による交流人口※の増加

### 【差別化戦略】

- 大規模災害の発生確率が低い
- 子育て支援策を軸としたタウンプロモーション※
- 英語特区の活用による教育支援策の充実
- 地域の関係性の維持と地域共生社会の充実
- 生活支援などの包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム※)の充実
- ドローン事業を活用した認知度向上の更なる強化(町のプロモーション強化)
- 地域で支え合う顔の見えるコミュニティづくりの強化

### 【問題回避】

- 子どもの数が少ないことを活かした個性教育の発展
- 子育てしながら働きやすい新たな環境の充実
- 買い物弱者対策、移動販売車等の運行支援
- 公共交通の改良による自宅までのラスト1マイル※の補完
- 地域活動の内容整理や役割分担による担い手の負担軽減
- 町の支援による複数の市街地への転居対策(コンパクトシティ構想※)
- 少子・超高齢社会に応じた公共施設の統廃合とインフラの長寿命化
- 地域コミュニティと連携した継続できる交通インフラの確保

## 4. 第2次総合計画で解決すべき町の課題

前述の社会の潮流と将来の動向や町民意識等からみえるまちの課題を踏まえ、本町が強力に推進していく課題を次のとおり整理しました。

### (1) いのちと暮らしを守る安全・安心への備え

大規模化で激甚化する自然災害や新型コロナウイルス感染症のまん延に加え、次々と形態を変える特殊詐欺など、住民の平穏な生活を脅かすリスクが多様化、複雑化しています。このため、前例踏襲や現状への対応に留まることなく、次代を見据えた創造的な施策が求められているとともに、町ぐるみ、地域ぐるみで危機意識の醸成と対応力の向上を図るなど、危機管理対策の充実、強化が喫緊の課題となっています。町民の安寧な暮らしを守ることが何よりも重要となっています。

### (2) 人口減少、少子超高齢社会への対応

我が国の人口減少、超高齢化については、本町においても深刻な課題であり、特に出生率については、平成26(2014)年に岡山県下ワーストとなるなど、人口の年齢構成の均整化に向けて、子育て世代が町に留まるとともに、町外から和気町へ子育て世代を誘引するための訴求力のある(移住・定住)施策を最優先で行わなければ、持続可能なまちや暮らしを維持することが困難になることが予測されます。

また、“人生100年時代<sup>\*</sup>”といわれる平均寿命の延伸に伴い、介護予防やフレイル予防対策によって健康寿命を延ばしていくための対応策を講じなければ、これまでのような水準のサービスを提供し続けることが困難となる恐れがあり、危機意識を持って適切に対応していく必要があります。

### (3) 若者と子育て世代への支援

子育て世代である若者の流出はまちの活力を低下させるだけでなく、将来にわたって人口構成バランスに影響を及ぼし、まちの将来に大きな不安を招くことになります。

まちの持続的発展のために最も必要な人口を維持するために、若者世代や子育て世代にとって、居心地よく、和気町に住みたい、住み続けたいと感じてもらえるまちであること、そして、そのために地域と行政が協働し、まちぐるみで子育てを尊び、子どもを守り育む体制を作り上げる必要があります。また、子どもは、町の希望であり、未来を担うかけがえのない存在です。子どもたちが未来に夢を馳せ、町に対する愛着を育む教育を推進し、子どもが健やかにのびのびと成長できる環境を提供することが必要です。子育て世帯の仕事と家庭の両立を支援するとともに、切れ目のない子育て支援を充実させて、核家族等の子育て不安を解消する取組を充実する必要があります。

### (4) 健康寿命の延伸と健康意識の高まり

世界屈指の長寿国である我が国にあって、「2025年問題」として提起されているように、本町においても、今後、医療や介護を必要とする高齢者が急増するとともに、核家族化の増加傾向もあって、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯も今後さらに増加することが見込まれます。

すべての町民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、健康寿命の延伸や医療や介護、生活支援などの包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の充実に向けた取組が必要です。

## (5) 公共施設の統廃合とインフラの長寿命化

本町が保有する公共施設やインフラ等は、高度経済成長期に集中的に整備されたものが多く、整備後すでに30～50年の期間が経過していることから、老朽化が一斉に進行しており、維持管理コスト等の増大による町財政の圧迫が懸念されています。

本町における人口減少を避けたい現実として捉え、長期的な視点に立ち、公共施設等総合管理計画やインフラの長寿命化計画等によって、効果的で効率的な施設の管理運営を行い、財政への影響を緩和することが必要です。

## (6) 農林業・農山村を取り巻く環境の変化

本町の農業は、農業従事者の高齢化や後継者不足による耕作放棄地が増加しており、鳥獣被害による農業者の営農意欲の減退などを背景に、活力の低下が顕在化しています。このままでは、近い将来、集落の景観が一変することも懸念されます。持続可能な農業構造の実現のため、複合営農<sup>※</sup>の模索や新規就農者等、継承者の確保、育成が大きな課題となっているとともに、農作業の省力・軽労化を図るなど、従来よりも効率的で経済的な農業経営ができる環境整備が求められています。

また、林業については、主に終戦直後や高度成長期の伐採跡地において、スギやヒノキなどの人工造林を進めてきた結果、現在は資源の利用期に移行していますが、人工林の放置が進み、里地里山の荒廃が顕著となっています。山林の適正な保全のためにも「森林資源の有効活用」を検討していく必要があります。

## (7) 地域共生意識の醸成

本町においては、人口の減少を背景とする少子高齢化、高齢者世帯の増加や世帯の小規模化などの要因から、地域におけるコミュニティ意識の希薄化、地域活動の担い手の高齢化やなり手不足など、地域内で支え合う、地域力の低下が顕著となっています。また、本町では、第1次総合振興計画策定時から「和気町助け合いのまちづくり条例<sup>※</sup>」を制定し、地域内の協働事業の取組を行ってきましたが、人口減少による担い手不足から活動が低迷している状況です。

女性も男性も、高齢者も若い人も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、共に助け合い、支え合いながら、だれもが生きがいを持って暮らし続けることができる「地域共生社会<sup>※</sup>」の充実強化に向けた取組が必要です。

### 「わたしの好きな和気町の風景」 こども絵画コンクール 教育長賞(小学生・中学年の部)



和気小学校4年 宇高 咲花 さん



**「にじ色プール」 こども絵画コンクール  
町振興計画審議会会長賞(小学生・中学年の部)**



**佐伯小学校3年 時本 衣羽 さん**

**「自然の多い和気町」 こども絵画コンクール 町長賞(小学生・高学年の部)**



**佐伯小学校6年 村井 礼愛 さん**